

施工について

改良圧着工法

改良圧着張り工法は、張り付けモルタルを下地面に塗り、これが硬化しないうちに、タイル裏面にも同じ張り付けモルタルを塗り付けて張り付ける工法です。下地とタイルの両側に張り付けモルタルを塗り付けるため、良好な接着強度が得られます。

施工手順

- 1** 下地の清掃後、吸水が激しい場合は アド・下地プライマー A を塗布してから施工してください。
下地(ベニヤなど)がしっかり固定されていることを確認してください。

貼り込み前の調節

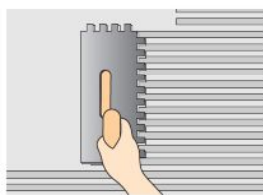
はじめに全体的なバランスを見るために、数ケースを混ぜ合わせて並べてください。

- 2** 張り付けモルタルをご使用ください。

- 3** 下地にくし目ゴテで張り付けモルタルをコテ圧をかけ、しごき塗りをします。

※しごき塗り後5分以内に仕上げ材を張り付けてください。

しごき塗り後5分以内でも表面に膜が張ったら(皮張り)取り除いて、再度しごき塗り後すみやかに施工してください。



指先にくっつく状態で張り付けてください。

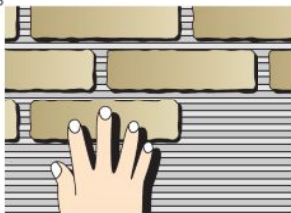
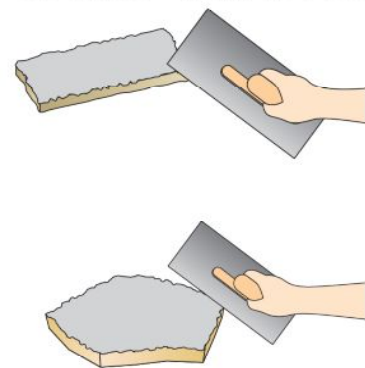
※皮張りしていないか確認

- 4** セメント系ブリック・ストーン裏面にも張り付けモルタルを薄く全面に塗り付け改良圧着張りしてください。

この際、圧着が弱いと剥離の原因になります。施工中ズレが生じそうな重量のある仕上げ材を張る場合は、下から順に積み上げて張り、ズレないように仮止めをしてください。

一番下の仕上げ材の下部は、ズレないように固定してください。

※ズレの手直しは20分以内に行ってください。



仕上げ材裏面
しごき塗り(塗厚1mm)

- 5** 目地詰め
施工後、48時間で目地詰めできます。
(気温23℃、湿度50%)

※冬季の気温7℃湿度20%では7日以上、養生期間をとってください。目地バッグを使用し、材料の厚さの2/3以上まで、隙間ができないようにしっかり目地詰めしてください。目地詰めが不十分だと材料の裏に水が廻り、剥離の原因となります。目地バッグを使用する際は、目地材がゆるめの方がスムーズに抽出できます。

- 6** 目地仕上げ

目地詰め後20~30分放置し、半乾き状態になってから竹ペラ等ではみ出したモルタルをかき落としてください。材料の表面に付着したモルタルは、必ず半硬化状態になってからブラシ、竹ペラ等でかき落としてください。

- 7** コーティング処理

外部への施工の際は、防水効果と表面保護効果のある専用浸透性吸水防止剤、アドシラン(ADC-500)を塗布してください。材料の表面が完全に乾いた状態で塗布し、塗布後3日間は絶対に水がかからないように注意してください。

<施工時の環境条件>

- ①降雨、降雪時および強風時など貼り付け作業に支障があるとき、ならびにこれらが予想される場合は、原則として施工を行わないでください。
- ②寒冷期に施工する場合、気温が5℃以下のときは作業を中止するか、適切な保温対策を講じてください。

- 深目地はクラック及び剥離の原因となります。目地セメントは必ず仕上げ材料の厚みの2/3以上詰めてください。**
- 外部の場合は、施工後1週間は雨、水をあてないよう養生を行ってください。
- 高所や危険な箇所への施工の際は、営業にご相談ください。
- バスルームやシャワールームなど、水が頻繁にあたる場所への施工は避けてください。
- アドシランは必ず材料が乾燥した状態で塗布してください。湿っていると浸透しません。
- アドシラン塗布後、水をすぐにかけないでください。アドシランが材料の奥に入り込みすぎて表面保護効果がなくなります。
- 門柱に使用する場合など、凝石そのものを笠木として使用することは避けてください。また、笠木には透水しない材料を使用し、十分な大きさを確保するようにしてください。笠木下部には、水切りを設けてください。これらの条件を満たさないと石の裏面に水がまわり、全体的に白華する恐れがあります。**
- 酸洗いは変色の原因となりますので避けてください。
- 木造住宅は十分な強度をもたせてください。施工後、クラックの原因となります。
- 下地ジョイント部分を仕上げ材がまたぐ部分は、下地の動きにとまないクラックが発生するおそれがあります。仕上げ材割付けの際はご注意ください。